

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	activeRise		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 1日		～ R7年 2月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	R7年 2月 1日		～ R7年 2月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スポーツをメインのプログラムを実施しており、体を動かすのに十分な環境がある。	児童の要望に合わせて、メジャースポーツやパラスポーツも取り入れている。	スポーツのインストラクターや、機能訓練士を交えたプログラム活動を
2	保護者の教育相談を頻繁に行っている。	自宅への送迎時や連絡帳を利用して児童の支援についての相談を取り合っている。	他関係機関と連携し児童の支援についてより専門的な知識を保護者に提供していきたい。
3	LINEを活用して細やかな連絡を取っている。	持参物で忘れそうなプログラムがあった際、各家庭に連絡している。	児童の日々の様子の写真やエピソードをもっと載せていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童に対するかかわり方に圧力を感じると意見を頂いた。	職員間で互いの支援の方法に意見したり、すり合わせをしたりする機会が少なかった。	月一のスタッフミーティングで、毎回互いの支援について振り返り、より適切な支援をできるようすり合わせていく。
2	職員会議を行う頻度が少ない。	タイムスケジュールの組み方が甘く、定期的な会議の実施が行えてない。	毎月、会議を行う日にちを定め、必ず行えるよう体制を作る。
3	ヒヤリハットの報告が少ない。	児童の見守り時に危険と判断する基準が曖昧になっている可能性がある。	普段の支援で考えられそうなトラブルや危険を予測できるよう職員間で検討会議を行う。